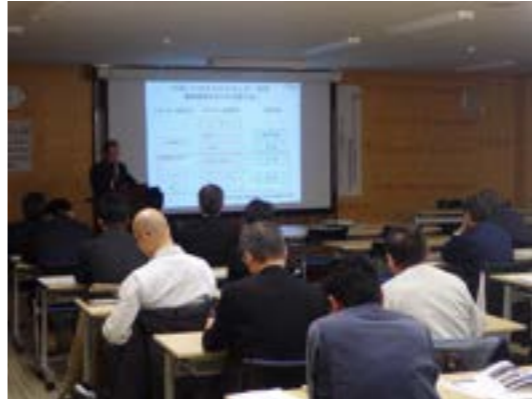


# 第4回 「津別町再工ネ勉強会」開催!

平成28年3月に策定しました「津別町モデル地域創生プラン」(平成28年度6月号広報に概要パンフレット折込)に基づき、第4回「津別町再工ネ勉強会」を平成28年11月24日(木)に津別町林業研修会館集会所で、町民など35名の参加を得て開催しました。

## 再工ネ勉強会の開催内容

第4回の再工ネ勉強会は、第1回再工ネ勉強会と第1回町民講座(兼第3回勉強会)にて講師とコーディネーターを務めていただいた、本町ですっかり顔なじみとなりました株式会社NERC(自然エネルギー研究センター)の大友詔雄センター長を講師に迎えて講演をいただきました。



▲再工ネ勉強会の開催状況

ついでわかりやすいイメージを持ってもらうために「木質バイオマスによる熱供給エリアイメージ」と題して情報提供を行いました。最後に、参加者から提出された質問用紙に基づき、大友センター長らが回答し意見交換(質疑応答)を行いました。

## 講演

「自然エネルギーの利活用は地場産業と調和し、地域内経済効果を高める」



株式会社NERC(自然エネルギー研究センター) 代表取締役センター長 大友詔雄氏

プロフィール  
1945年、北海道江別市生まれ。工学博士。1999年、北海道大学ベンチャー企業として現在の会社を設立。同代表取締役センター長として現在に至る。

講演の内容について簡単に紹介します。

■木質バイオマスのエネルギー利用は  
①実用技術でなければ使えない  
②発電利用の問題点

・小規模木質バイオマス発電は発電効率が低く、燃料が大幅に無駄になる  
・先ずは熱利用を進めることが重要

■バイオマスガス発電は有効

バイオガス発電は、発電効率が高く、熱利用が容易であり、電気と熱の利用を進めることが可能  
・ 牧草・とうもろこし・食品残渣等は家畜糞尿よりバイオガスの発生量が多い

■地域熱供給(ドイツの事例)

・地域熱供給はごく当たり前の技術  
・ドイツの地域暖房は100年以上前にはじまり、歴史的に電力、水と共に地方自治体主体の公営会社が運営。近年では民間企業も参入。

■地域熱供給の前提条件

【成立の要件】  
《地域条件》  
①熱需要の定量的把握(高い熱需要密度の存在)  
②熱需要施設の状態(少ない先行的準備)

## 意見交換

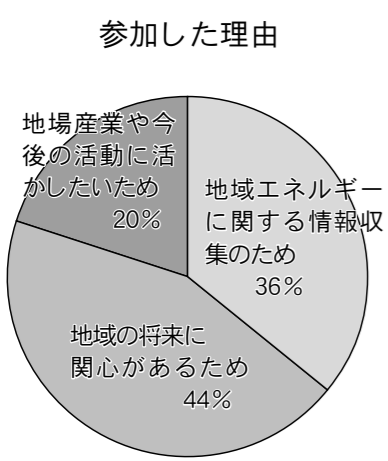
会場の参加者から提出のあった主な質問をご紹介します。

- 《町への質問》
- ①木質ペレットの年間消費量はいくらか。
  - ②今後バイオガスプラントの推進について検討の可能性はあるか。
  - ③天然乾燥したチップ化の問題、課題はないか。
  - ④枝のチップ化は可能か。
  - ⑤町のエリアイメージでドイツの例のバイオガスプラントの併用、利用が可能か。
  - ⑥木質バイオマスは、地域に熱供給するだけでなく発電も可能か。

## アンケート結果

参加者を実施したアンケートの一部をご紹介します。

※参加者35名、回答者18名、回答率51%



計画性)

③熱供給の時間的状況(短時間の建設)需要定着までの期間  
④適正なエネルギー源(地域資源)の確保

《事業性条件》

①事業主体の確立(公設・民設)  
②自治体・関係者等の理解(地域の合意・各種許認可)  
③計画策定(機器装置計画・配管計画・熱販売計画)  
④事業性の確立(需要者の満足・資金調達)

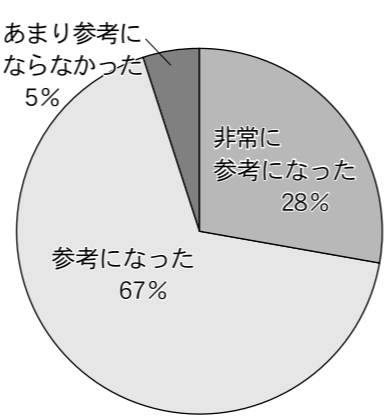
【熱需要量分布】

「見える化」することで実際の熱供給イメージが出来る(下川町・斜里町・足寄町の分布図を例に説明)

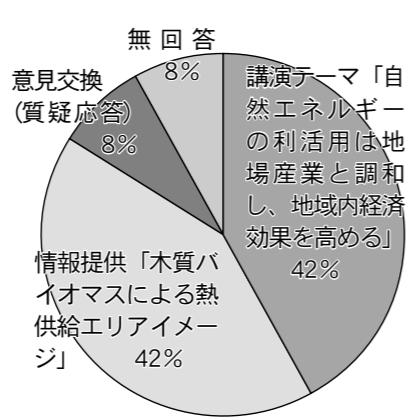
【木質バイオマス燃料の性状】

・生チップは燃料に不適である↓生チップポイラーは有りえない  
・含水率の高い燃料は、含水率が低い燃料より使用量が増えるため貴重な地域資源を無駄に使うこととなり、地域内経済効果を生まなくする  
・努力するべきことは、高含水率の燃料を燃やせるポイラーを求めるのではなく、燃料の含水率を可能な限り低めて(乾燥させて)燃料として使うことである  
・原木の乾燥は、天然乾燥(有価な燃料)による人口乾燥は成り立たない

## 参加しての感想



## 関心をもった内容



今後の取り組みについて(二案内)

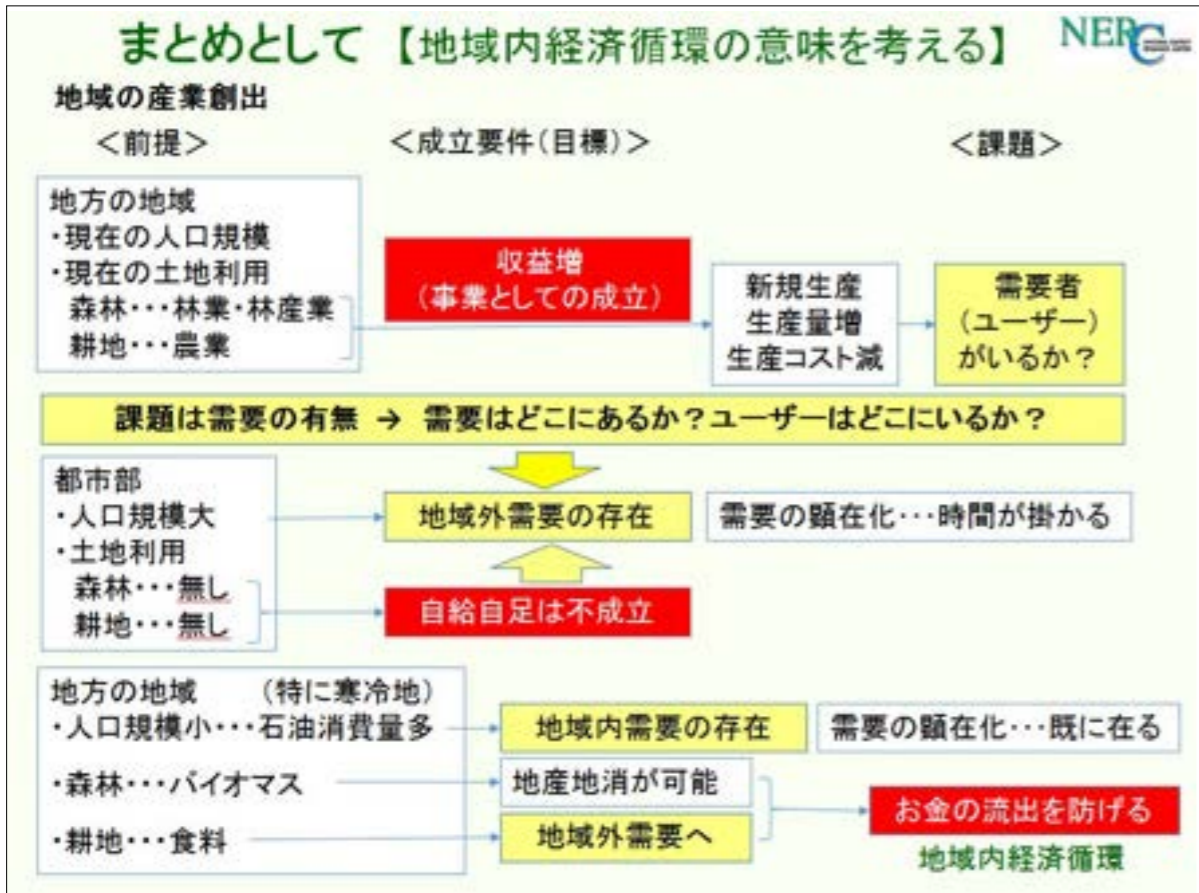
町民を対象とした再生可能エネルギー基礎講座「第2回町民講座」を開催します。つべつの未来を一緒に考えてみませんか。

日時 2月9日(木) 18時30分から  
場所 林業研修会館2階集会所

問い合わせ先

産業振興課 林政・再生可能エネルギー推進グループ  
☎76-2151(内線318)

▼大友センター長が最後にお話しされた地域内経済循環の資料



■最後に・・・  
森林と耕地の両方が豊かにある津別町の将来は、左図の構造で考えると「お金の

流出を防ぐ」という観点を持つてすれば、立派に地域が自立する条件を持っている。